

## 平成28年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	清泉女学院大学人間学部	職名	准教授	助成金額	300,000円
氏名	岡本かおり	メールアドレス	okamotokaory@gmail.com		
研究課題（申請書に記入した内容を記入すること。）					
東日本大震災遺族への支援者支援および遺族者向けリーフレットの作成					
助成金使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）					
<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークショップ講師謝礼（5000円×4時間×2人分）40,000円</li> <li>打ち合わせ旅費（長野⇄被害者支援都民センター1回（新宿区西早稲田）、長野⇄国府台病院児童精神科1回（市川市））：31,613円</li> <li>勉強会旅費（長野⇄岩手医科大学（盛岡））：47,890円</li> <li>研修（ワークショップ）旅費：石巻⇄都内2名（中野、新宿）、石巻⇄長野1名、宿泊費3名分100,610円</li> <li>書籍資料費：61,878円</li> <li>心理教育教材印刷費：22,081円</li> <li>通信費：2,042円</li> <li>その他（会場使用費・消耗品費）：7120円 合計313,234円（△13,234円）</li> </ul> <p>石巻市周辺の養護教諭、スクールカウンセラー等、こころのケアを提供している支援者を対象に、東日本大震災後の長期的ケアを見据えた心理教育に関するワークショップを開催した。</p> <p>開催日時および内容について、平成28年10月頃より、石巻市周辺で活動中の養護・心理的支援の研究会の主催者等に複数回、相談して出来るだけ現地の希望に沿うよう配慮した。</p> <p>検討の結果、参加者は、学校関係者が多くなるため、年末や年度末の開催ではなく、夏休みの方がゆとりをもって参加できる、内容も遺族や被災者という名称を使用せずに、複雑・多岐に渡った教育上の問題・心理的問題に該当するようなテーマを設定する。虐待・愛着障害・発達障害・不登校・対人関係と幅広く、問題の原因が単純ではなくなっている昨今の状況を踏まえ、①幅広い年齢層、対象に応用できる、②震災・遺族支援を全面に出さない、③気軽に使用可能な教材をメインにすることとした。</p> <p>開催日：2017年8月11（金・祝）13：00～16：00 ところ：IRORI 石巻 石巻市中央2丁目10-2</p> <p>サマーワークショップ 学校・相談・地域で役立つ～こころを整え、子どものリソースを引き出す支援ツールの使用～</p> <p>内容：こころ（感情）の理解とコントロール、リソースと強み探し（よいところを伸ばす、欠点を長所に！）、行動の変化を促す、振り返りほか</p> <p>講師：報告者を含む、PTSDやトラウマ臨床を専門とする臨床心理士3名</p> <p>参加者10名（養護教諭・臨床心理士・保健師・教師等）欠席者1名に資料を送付した。</p> <p>研修会終了後、メールにて連絡し、意見や質問を募集するなどのフォローを行った。実施後のアンケートによると「トラウマによって生じる身体と心の苦痛な反応は当然の反応なのだとしっかりと理解してもらうことが重要」「心理教育の大切さを改めて考えさせられた」「大きく構える必要はないのかなと感じた」「その人のペースに合わせる心が心を守ると感じた」等の感想が得られた。また、今後は、虐待を受けた子ども、トラウマを抱えた子どもや保護者に対する対応について研修を受けたいという意見が寄せられた。</p>					
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合はURLを記載すること。）					
発表者氏名 （著者・講演者）	発表課題名 （著書名・演題）	発表学術誌名 （著書発行所・講演学会）	学術誌発行年月 （著書発行年月・講演年月）		
岡本かおり	東日本大震災後の長期的ケアを据えた心理教育ツールの利用（仮題） 投稿準備中	大学紀要・地域支援センター 報告書等			